

# 電子学術書利用実験の概要

---

慶應義塾大学メディアセンター所長 田村俊作

# 米国大学図書館の状況の整理

- 
- × 米国の大学図書館は、すでに「大量デジタル化」の時代を迎えている
  - × 書籍の「大量デジタル化」は新しい電子書籍の購読と古い紙媒体の書籍のデジタル化とにより進んでいる
  - × 図書館のサービス、電子資料の保存、紙媒体資料の保存が課題となっている

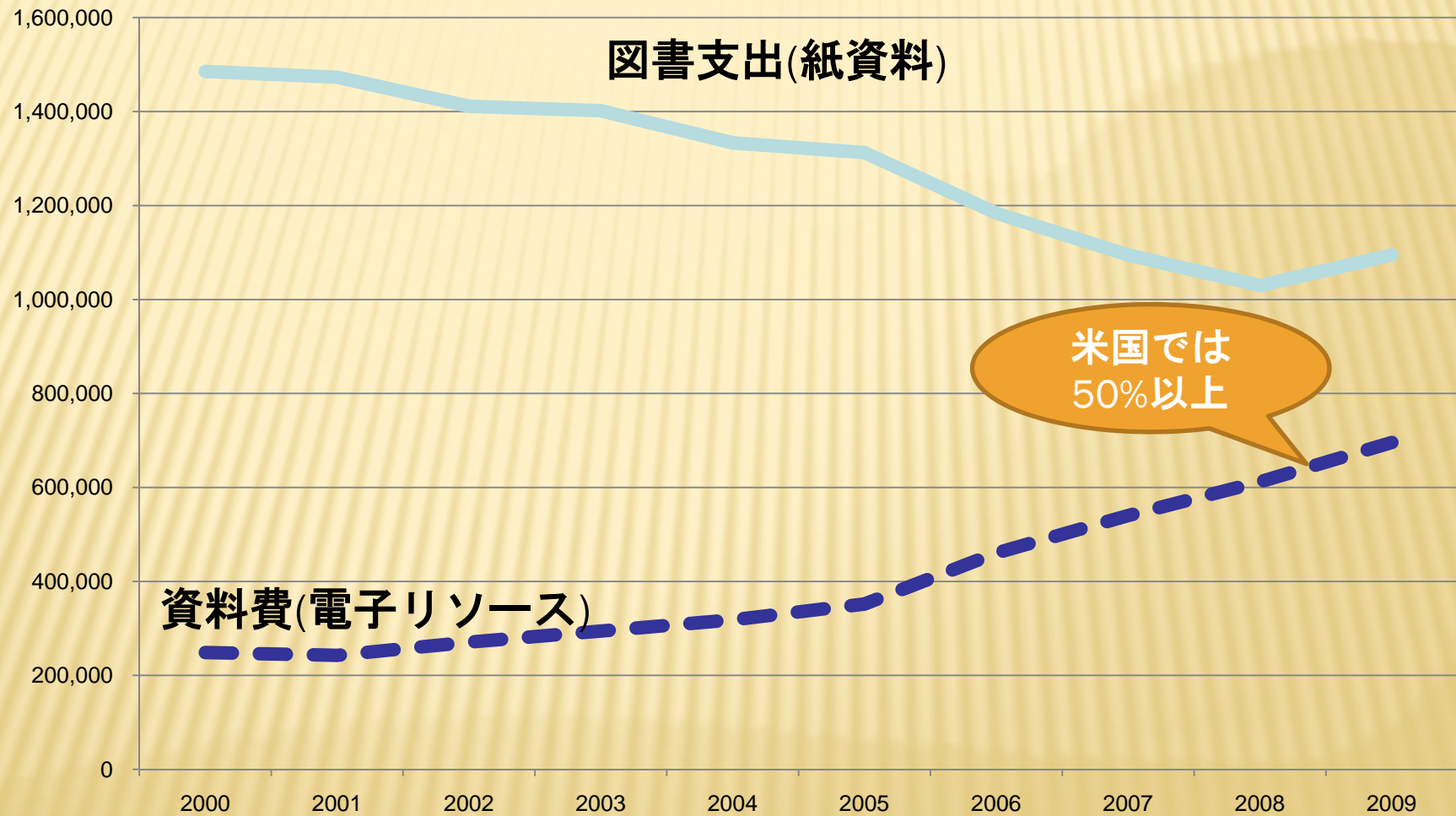
# HATHITRUST とは

---

- × 米国の23の主要大学によって立ち上げられた、協同デジタルリポジトリ
- × 学術研究利用を主眼にデザイン
- × Google Book Searchのバックアップ的機能も担う
- × 2010年10月現在、約680万冊のコンテンツを収録（うちパブリックドメインは約145万冊）
- × 著作権保護期間内の資料は、検索のみ可（検索語の出現頻度等がわかる）

# わが国大学図書館の現状

# 図書館予算の構造的な変化



## 慶應義塾大学で利用可能な言語別の電子媒体資料

	電子書籍（冊数）	電子ジャーナル（タイトル数）
英語	17,700 冊	36,000 タイトル
日本語	600 冊	1,400 タイトル（商用100）
中国語		9,000 タイトル
韓国語		1,400 タイトル

---

× 増加する資料費の大多数は外国の電子ジャーナルに

利用の多さ（重要誌を網羅）

契約方式（一括契約）



# 国内の電子学術書

---

- × 電子学術書の少なさ
- × 図書館での購読モデル・利用モデルが確立されない。

（現行は紙媒体に準拠）

← 悪循環

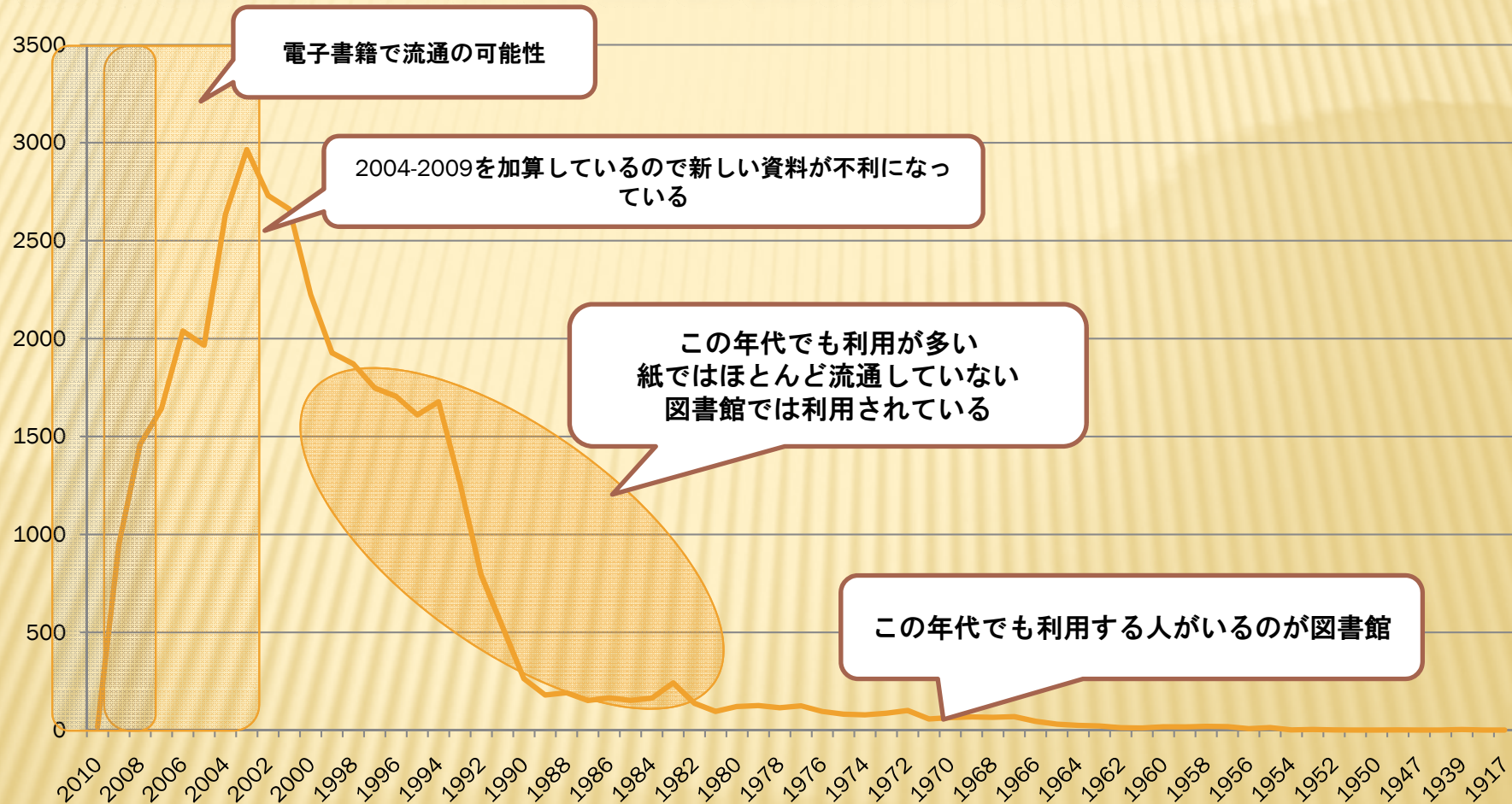
# 大学図書館での電子学術書の利用

- × しかし学術書の利用は落ちていない。
- × しかも，新刊書籍だけが利用されているわけではない

← 少し古い本をデジタル化し提供する

可能性

# 理工学部・出版年別の貸出タイトル数



慶應義塾大学理工学メディアセンター（図書館）の貸出記録から、2004～2009年度の6年間で1回以上の貸出があったタイトル数を出版年別でカウント。10年以上前（2000年以前）の資料も一定数利用されている

# なんで日本で電子書籍が進まないか？

## × 出版社

- + ビジネスの不安
- + 技術的な不安
- + コストをかけて踏み込めない

## × 図書館

- + 良い商品がないので買えない
- + 電子ジャーナルの対応で手一杯

## × プラットホーム不在

# このギャップを乗り越えるために何が必要か

不安で  
踏み出  
せない

商品が  
ないか  
ら買え  
ない

- × 相互理解
- × ビジネスモデルの検討
  - + 図書館でのモデルの検討
  - + 使えるものにするための品揃え
  - + 使ってもらうための誘導、インターフェース
- × 技術評価
  - + iPadなどのデバイス評価
  - + 学生が使いやすいインターフェース
  - + 図書館で使えるDRM
- × このために出版社・図書館で協力して実験を行いビジネス基盤を検証する

# 実験の説明

---

# 各担当の役割

## コンテンツ

- ・ 電子書籍化するタイトル選定
- ・ 電子化に伴う権利処理
- ・ 実験期間中の無償提供

## オーサリング

- ・ 書籍のデジタル製版
- ・ データフォーマット
- ・ One Source Multi Use 実験

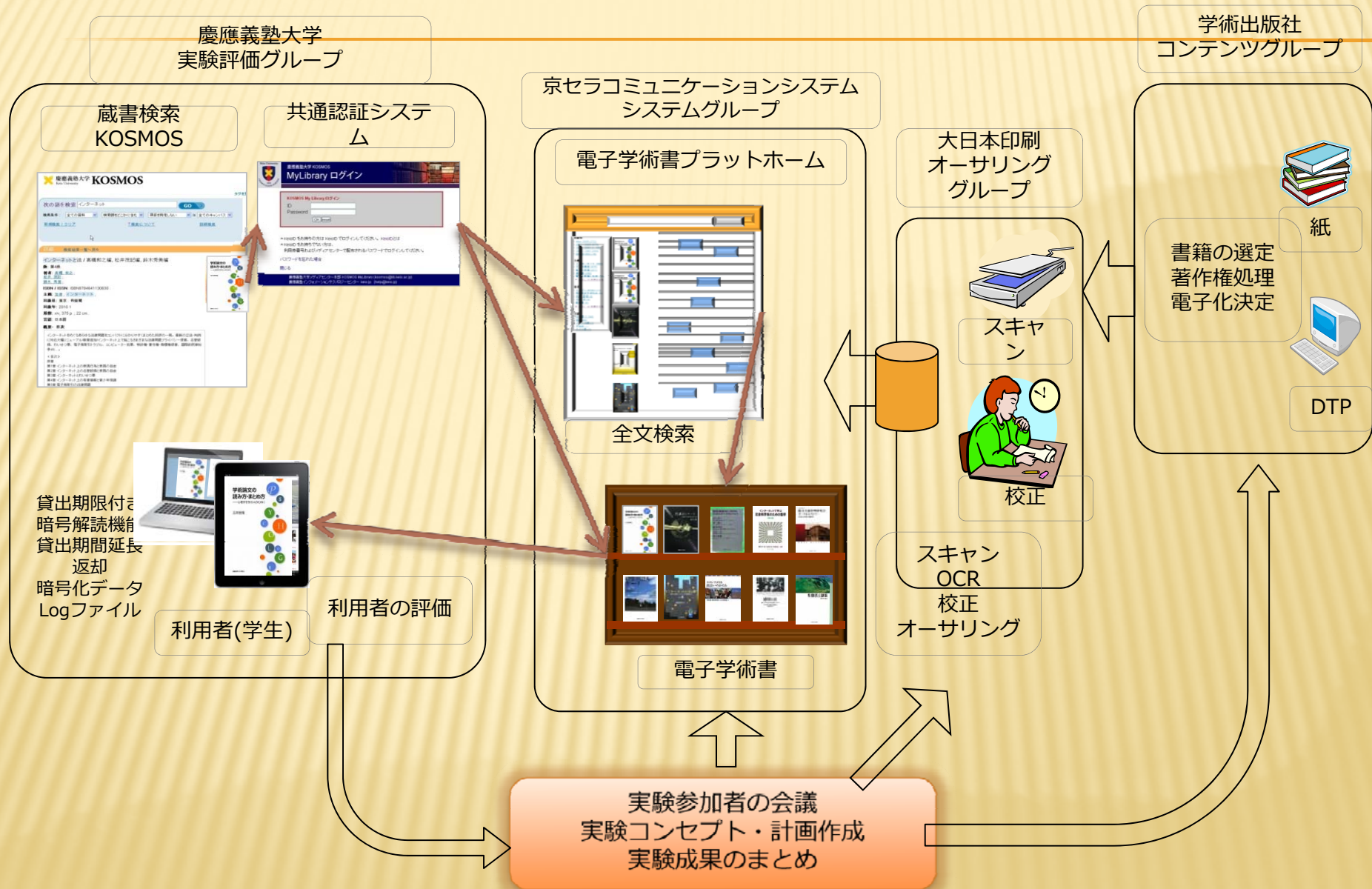
## 大学図書館

- ・ よく使うタイトルの選定
- ・ 被験者、実験場の提供
- ・ 利用者の意見を集約

## システム

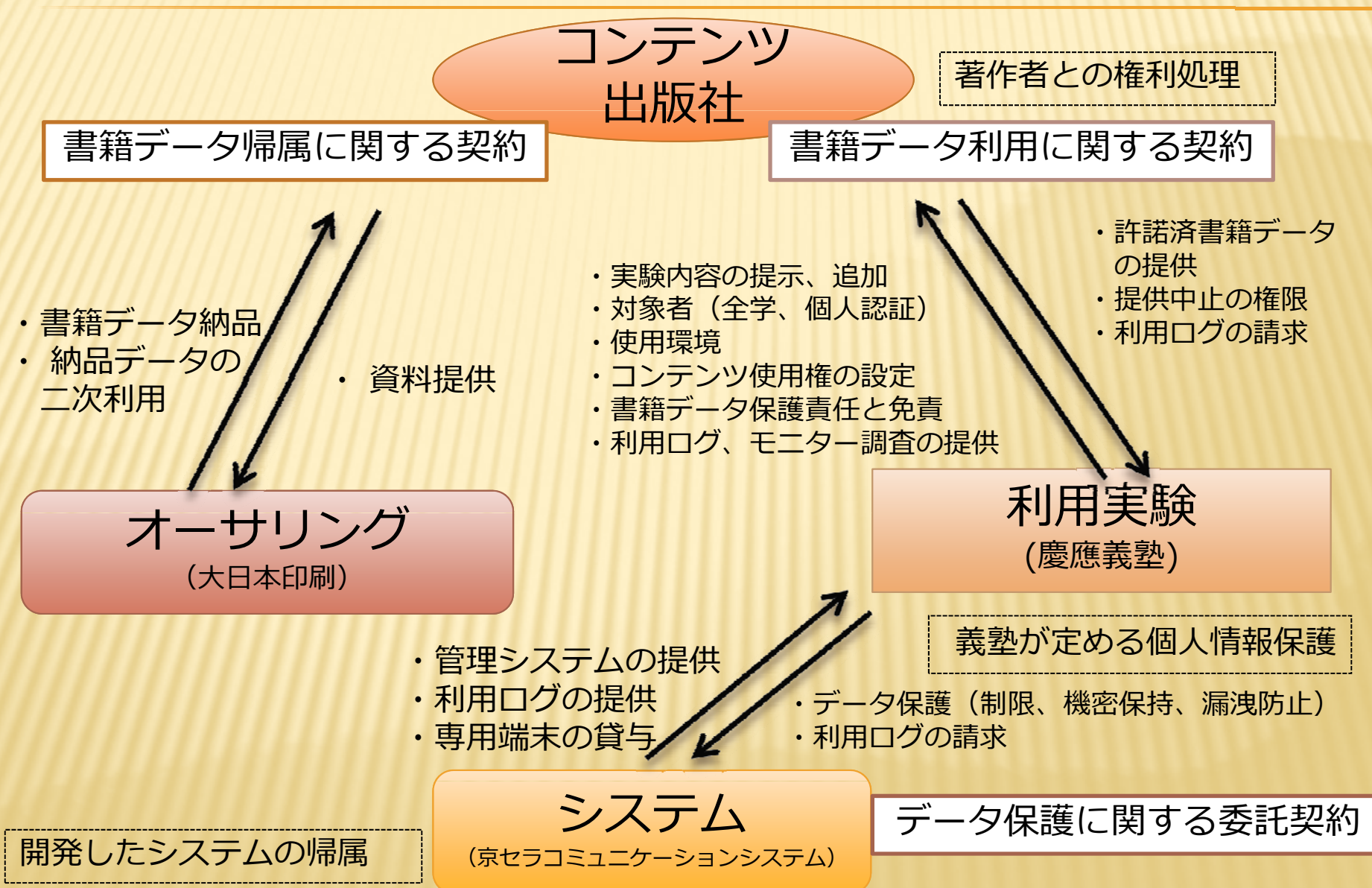
- ・ ビュアー マルチフォーマット  
マルチデバイス
- ・ 書籍データの管理・配信
- ・ 合理的なDRMと利用ログの集積

# 実験モデルの説明





# 実験のための許諾契約（案）



# 実験の目的

---

- × コラボレーション
  - + 出版社や書店が商品を作って売り それを図書館が買う ということではなく
  - + 共同して、学生のために商品を開発するというコラボレーションを行う
- × 実験でマーケティング・技術的な課題を連携して検討する
- × ビジネス確立へ向けた実証実験
  - ← 長期的に読者、研究者、利用者を確保し、日本語の文化を維持・発展させることに

# 利用実験の方法(予定)

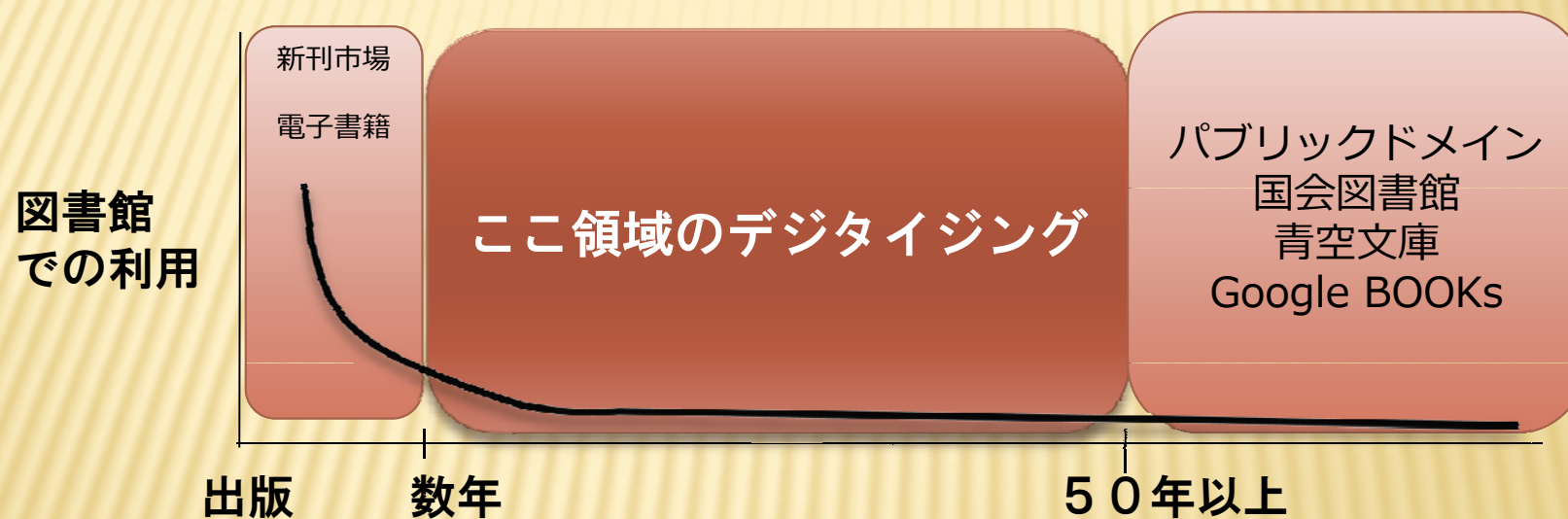
---

- × 図書館システムからのサービスでの誘導
- × 学生モニターの公募による アンケート 聞き取り調査の実施
- × 利用ログからの分析
  
- × 授業での取り組み検討
- × iPad 等のアプリ機能拡張による学習利用評価

# スケジュール(予定)

- × 2010/11 - 2011/03 **基礎実験**
  - + プラットフォームを開発し、実際に使える環境を用意して、問題点を明らかにする
  - + コンテンツグループ意向をもとに実験モデルの確定
  - + 実験モデルでの学生利用と評価
- × 2011/04 - 2011/09
  - + コンテンツを増やし、学生実験の推進
  - + プラットフォーム、デバイス機能の拡張
  - + 教員、授業での利用、他大学との協力の検討
  - + モデル評価、問題点の検討
  - + 貸出期間、印刷などの課題検討
- × 2011/10 - 2012/03
  - + コンテンツを増やし、具体的なビジネス利用のイメージで実験

# 学術書全体の電子化のコンセプト



お願い

# 出版社の皆様へ

---

- × 協力して実験を進めるために、著作権処理済みの書籍の提供をお願いします。
- × 実験についての意思決定は、みなさまの合意で行なわれます。

# ビジネスや技術に 関心のある皆様へ

---

- × これはオープンな実証実験です。
- × 関心のある方のご協力をお願いします。